

# 地域の課題と解決策

## ○事業開始前に 事務局が捉えていた課題

情報共有の効率的なツールがなく、連携が進んでいない環境にある。

## ○事業開始後取組みを進める中で 見えてきた優先順位の高い取組み課題

同職種間での情報共有も十分ではない事が分かり、ツールの整備とともに顔の見える信頼関係づくりが重要である。

**\* 訪問看護ステーション職員の地域包括ケアシステムに対する認識が変わることで、モデル事業の進展が捗る。**

**\* 意見交換することの重要性について関係機関等に理解をしていただくとともに、意見交換のできる場の設定について調整検討を行う。**

# 前半の振り返りと改善策

- 事務局体制の強化を図る。
  - \*事務局内の調整及び効率的な事業実施を図るため、担当による調整会議を随時開催
- 地域情報の把握に当たり、各地域における社会資源の集積が不足している。
  - \*個別データを集積、分析することで地域ごとの問題点を抽出(今後)する。
- 訪問看護ステーション職員と共通認識のもと事業を進める。
  - \*意見交換が多くできるよう事務局が主導する。
- 取組み実績（会議以外）
  - ・講演会 9月27日（土）午後2時～4時30分 新城文化会館 184名出席
  - ・先進地視察 10月9日（木）千葉県柏市 各会議の委員、事務局 6名参加
  - ・公開講座参加 10月11日（土）名古屋大学医学部附属病院 委員等 9名参加
  - ・ICT（電子@連絡帳）の導入『東三河ホイップネットワーク新城市』の立上げ

# 在宅医療に関する講演会 超高齢化社会を生き抜くために

## 超高齢化社会を 生き抜くために ～2025年年問題～

【9月27日:(土) 14:00】

### 【演題】

・地域包括ケアにおける在宅医療  
の重要性

国立長寿医療研究センター

在宅連携医療部長医学博士 三浦久幸 氏

・各全国先進地域の取組みから学ぶ

在宅連携医療部 研究員 後藤友子 氏



## 柏市視察(10月9日)

### 【地域医療連携センター】

- ・視察の目的:在宅医療を含む多職種連携において、先進的な展開をしている状況を視察



### 視察の内容

- ・医療と介護連携のための推進体制の充実
- ・医師会等との良好な関係
- ・主治医・副主治医の仕組みの構築
- ・多職種連携のため、研修会等を通じ顔の見える関係を構築 ⇒ ICT活用 ⇒ チームケア

皆様に知ってほしい！

## 当地域の特徴的な活動

○医療・介護資源が限られ、関係機関のつながりが希薄な当地域で  
市内全域をエリアとし、24時間対応の公設訪問看護ステーションが  
情報共有ツールとして、訪問看護の利用者を手はじめにICT導入を  
図っていく。

そのプロセスが、顔の見える関係づくり構築の糸口となっている。

○地域自治区の実践から、高齢者を含め地域福祉の意識が高  
まっている。今後の実践として・・・

①地域住民（地域自治区）への説明、協力依頼

②各地域におけるボランティア兼リーダー役の掘り起し、育成

# 来年度にむけて

## ■今年度の目標

○会議、研修を通して顔の見える関係づくりを

○ICTシステム【電子@連絡帳】  
活用について訪問看護ステーションの利用を通して検証する。



## 新城市訪問看護ステーションの業務実態

看護師 7名  
利用者 約50名

利用地域 新城市全域

最遠方利用者までの距離  
往復52km  
1日の平均移動距離  
約40km



## ■来年度の目標

- 在宅医療の重要性を地域住民、多職種機関・団体に理解をいただくため、講演会、研修会を引き続き開催する。
- 新たな介護予防の取組みに当たり、地域の協力が不可欠となるため、地域（地域自治区）との協議を通して、地域の力量に応じた支援体制を講じる。
- 住まいという環境側面から検討する。
- 多職種間における顔の見える関係づくりのため、意見交換等のできる、かつ定期開催にむけた場の設定に取り組む。
- 在宅医療連携からICTシステムの普及、利用促進を図る。



# 問い合わせ先

## 新城市市民福祉部長寿課

担当者 : 岩田、栗田  
Mail : [kaigo@city.shinshiro.lg.jp](mailto:kaigo@city.shinshiro.lg.jp)  
TEL : 0536-23-7688 (ダイヤルイン)  
住所 : 〒441-1392 新城市字東入船6番1